

静岡県試験研究 10 大トピックス（富士工業技術支援センター）

<p>タイトル</p>	<p>要介護者をそっと見守るシステムの開発</p>	<p>研究課題名 期間</p>	<p>地域包括ケアシステムを支える見守りシステムの開発 平成 25～27 年度</p>
<p>所属</p>	<p>工業技術研究所 富士工業技術支援センター 機械電子科</p>	<p>補職名 研究者名 問合せ先</p>	<p>上席研究員 中山 洋 上席研究員 岡田慶雄 研究員 白井 圭 研究調整監 三浦 清 0545-35-5190</p>
<p>研究概要</p>	<p>〔背景・ねらい〕 日本は世界一の超高齢化社会であり、今後も総人口に占める高齢者や重度の要介護者の割合が急速に増加すると考えられる。こうした中、介護現場では人手不足が更に深刻化し、要介護者の安心・安全性に係わる懸念や、介護者の精神的・肉体的負担が増大していくことが危惧されている。そこで、要介護者の状態を無拘束で検知できる見守りセンサを開発し、地域包括ケアシステム*に役立つ見守りシステムを開発する。</p> <p>〔成果の内容・特徴〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 介護現場のニーズ調査から、要介護者に気づかれにくい離床センサが求められていることがわかった。そこで、介護現場での実証試験を通して、マットレス下に設置できる離床／在床が判別可能な離床センサを開発し、共同研究企業が商品化した（図 1）。 2 地域包括ケアシステムに役立つ、介護現場の実情に合わせた新たな見守りシステムを開発した（図 2）。無拘束かつ意識させることなく、要介護者の状態（呼吸／脈拍／離床／在床等）を検知・計測・報知できる新たな見守りシステムであり、要介護者の状態を確認できるとともに、体調変化の早期発見や離床・在床異変（徘徊、トイレ時の異変、トイレに行っていない等）、や睡眠の状態等を把握できるようになり、常に傍についていなくても状態に応じた見守りが可能となる。 3 これらの開発した見守りシステムについて特許を出願した。 <p>〔成果の活用・留意点〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 共同研究企業と特許実施契約を締結し、「マットレス下離床センサ」として商品化した。 2 開発した見守りシステム（呼吸脈拍センサシート部）については医療機器（クラス I）への申請を行い、普及を図っていく予定である。 3 得られた見守りセンサ技術の他分野への応用展開を図っていく。 <p>※重度な要介護状態になっても、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けられるよう、住まい・介護・医療・生活支援等が一体的に受けられるシステムで、2025 年を目途にその構築を目指している。</p>		



図1 商品化した「マットレス下離床センサ」

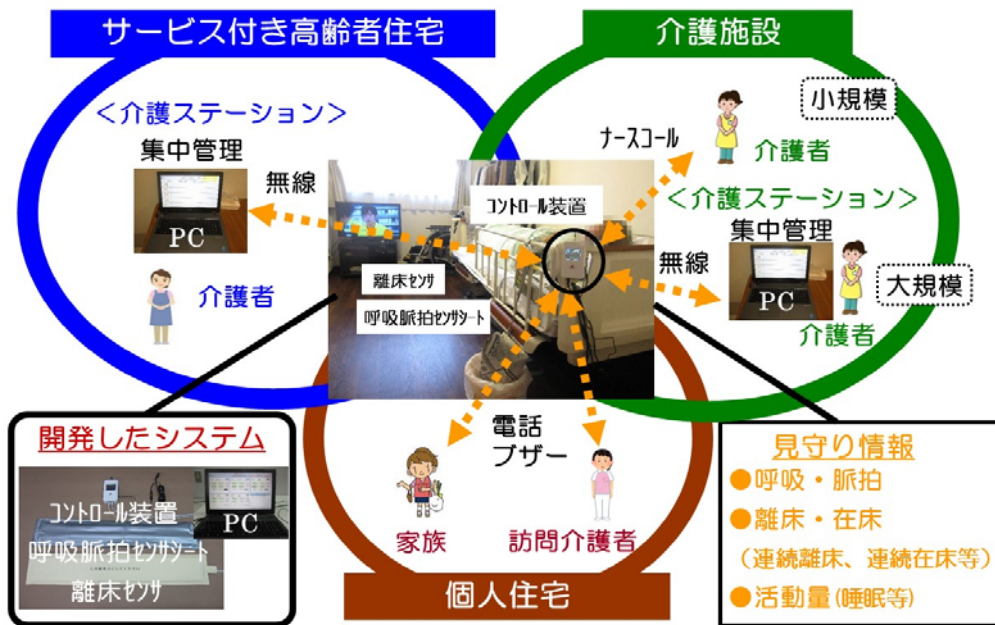


図2 介護現場に応じた新しい見守りシステム